

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100355		
法人名	医療法人厚生会		
事業所名	グループホーム匠 九頭竜ユニット		
所在地	福井県福井市灯明寺4丁目1706		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に基づいて、利用者様が自分らしく生活できるように個性を尊重した生活の支援をしている。また、施設内の共同生活において役割を持って生活してもらえるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は福井市北部の明新地区に位置し、新興住宅の一角に立地している。事業所玄関前には、子どもから大人まで遊ぶことができる「灯舟(とうしゅう)ひまわり公園」という大きな公園があり、利用者の散歩コースで交流の場になっている。明新地区の地震等の指定緊急避難場所になっている。担当職員が家族に対して認知症状やコミュニケーションを含めた生活状態を介助度で表し、短期目標に沿った支援内容について実施状況や目標達成度を示し、家族が見やすく理解しやすいよう項目別に記載し毎月郵送している。また、行事の際の写真や生活状況も記載・添付し、家族は利用者の様子を垣間見ることができる。管理者は異動1年目で1から頑張りたいと意気込み、リーダーシップに信頼感を持ち職員間のムードが高まっており、何事にも前向きに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示しており朝礼時に理念を復唱しておりミーティングを通じて理解を深めている。	法人の基本方針と事業所の理念を掲げ毎日唱和している。地域を含めた現状のニーズを考慮し、職員と新しい理念の作成を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり地域の清掃に参加している。今年度から地域の祭りの御輿に来てもらうなど少しずつ地域行事への参加を進めている。	コロナ禍が継続しているため地域住民との交流は少ない。町内の祭りの神輿が来所したり、目の前の公園の散歩の際に地域住民と交流したり、衛生看護科の実習生を受け入れたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域交流はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しているが、施設の感染状況等により書面での開催が多くなっている。議事録においてはご家族に郵送している。	今年10月から対面会議を再開し意見交換を行っている。議事録は家族に郵送している。地域に向けて事業所情報の発信を検討している。	地域福祉委員や公民館館長、サロン代表、老人会等に対して運営推進会議への出席を依頼し、構成員を増員することで、より地域に根差した事業所となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例の対応などは地域包括支援センターに相談しアドバイスを頂いている。また疑問点などにおいては市の担当者に確認を行っている。	市職員とメールでやり取りするほか、地域包括支援センターに困難事例を相談するなどし、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策の為玄関の施錠はしている。身体拘束の研修は年2回行っている。運営推進会議時に身体拘束等の適正化の為の委員会を開催し報告している。	委員会において身体拘束等の適正化のための指針について討論するなど、身体拘束の弊害について定期的に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修を定期的実施している。施設内では伝達講習会を行ない職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が後見人制度を利用している。後見人と接する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に必要な事項の説明を十分に行い質問などもして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は面会時、担当者会議時、来所時に話し合いをしている。意見、要望などを確認し	家族が具体的に要望を出しやすくなるように、毎月の生活状況や短期目標に向けての実施状況や目標達成度をA4の用紙にまとめて理解しやすくしている。主に要望は面会時に聞き取り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の際の面談やミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また普段から職員からの相談があれば話を聞く機会を作るようにしている。	個人目標管理シートで評価し、年2回面談を行っている。今年度、異動で着任した管理者が職員から信頼されており、リーダーシップを発揮して職員関係が良好になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行ないその際に面談も行っている。目標設定も本人がやりがいを感じれる目標になるように本人と相談し決定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員の異動、退職などで法人内研修にしか参加できていない。法人外の研修も予定していたが感染症発生があった為中止とした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は交流などもできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用者様、ご家族様への要望の確認を行っている。プランにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に利用者様、ご家族様への要望の確認を行っている。プランにも反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成がアセスメントをした上で、支援を見極めてケアに結び付けている。電話連絡時や面会時に本人様の様子等を報告しご家族の意見を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせた活動を支援しグループホームらしい家事活動を取り入れ役割を持ってもらっている。活動してもらった後にはお礼を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況は常に家族に活動報告を通じて報告している。また受診介助に関しては家人様にお願いしている。緊急時や体調不良時には電話にて相談、連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会室を用意し予約制だが面会を再開している。また運営推進会議などを通じて面会についての意見、要望などを他者から意見を頂き参考にしてしている。	コロナ禍が継続しているため、現状は面会も家族のみ可能である。いつでも家族を思い出せるように手紙を書いてもらうように勧めている。職員も利用者の気持ちに合わせて手紙を書くことがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を把握しテーブルの席などを考慮している。家事活動を共同作業で行う事で交流ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談業務は継続している。又終了前にも相談業務継続可能な事も伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と日々会話する中で利用者様の意向や思いなどを確認している。また入居者様個々に担当職員を決めている。	利用者が役割を持つためにミーティングで話し合い、行動を観察し利用者の思いや意向の把握に努めている。また、介護計画にも繋げていきたいと前向きに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が各利用者様の基本情報の確認をするとともに新規入居者様に関しては朝礼時に基本情報などを読み上げ職員へ周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用して記録を行っている。適宜介助方法などを見直し、検討をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング等を職員間でも行っている。面会時、担当者会議、電話を通して介護計画書に反映している。	毎月家族に送付する活動状況報告書に介護計画も含み、支援内容に実施状況や目標達成度も記入している。家族に解りやすく現状に即した介護計画になるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議やミーティング、申し送りを通してケアの見直しを行っている。申し送りに関しては共有シートを業務に入る前に確認し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を汲み取りながらケアの見直しを行っている。管理者と各ユニットリーダー、職員とコミュニケーションを取りケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過の為地域交流は中止しているが、感染対策ができるものに関しては再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、かかりつけ医は本人、家人が希望する所を家人受診にて行って頂いている。また状態報告書を作成し家人に渡している。必要があれば病院とのやりとりを職員が直接し情報共有に努めている。	利用者はかかりつけ医を継続し、状態報告書には身体・生活状況と最近の様子も記入している。今後は協力医院の往診依頼を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や身体観察で気づいたこと、異常時には指示を仰いでいる。緊急時の対応も訪問看護師と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ基本情報を提出している。入院中は医療連携、相談員と定期的に連絡を取りカンファレンスにも出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて早い段階から家族と相談する機会を持ち、今後についての話し合いをおこなっている。	最近は見取り経験がないが、今後は利用者・家族の意向に沿いたいと考えている。医療機関と連携したり職員の技術向上に努めたいと意欲を持って取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応研修に参加し伝達講習を行っている。急変時、事故発生時に備え緊急連絡先、搬送先のリストを作成してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議でも協力要請などを行っている。災害時BCPも作成し随時災害時の対策を行っている。	現在、災害時のBCP(業務継続計画)を作成中であり、検討する内容を赤字で示し年度中には完成予定である。ハザードマップで水害が予測されるため、事業所に合った避難方法について検討している。備蓄は職員の休憩所で管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮した言葉遣い、声掛けを行うように心がけて介助している。プライバシーを損なう言動が見られた場合には職員同士で注意しあっている。	毎年、接遇研修を行っている。異性介助の場合、プライバシーの確保や利用者に合わせて声掛けで笑顔や会話が弾んでいる。個人に関する書類等は事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に分かりやすいよう説明や同意を得ている。話しやすい様に日頃からコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に担当職員をつけると共にミーティング時に利用者個々に対して話し合いを行っている。また利用者の話を傾聴する事を重要としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に施設に気てもらい頭髪を整えている。衣類に関しては本人と共に選んでおり、状態によっては家人に依頼し新しい衣類を用意してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注(スバル食品)を利用している	業者の献立で塩は一日6~8グラムのメニューを提供し、アレルギーがある利用者へも対応している。ご飯は事業所で炊き、利用者は下膳やテーブル拭きなどの手伝いをしていいる。おやつ作りや行事食が少ない。	食を楽しむことは大切であり、五感を刺激することでエネルギーの源になる。利用者と一緒に料理を作ったり食事ができる機会を更に多く設けることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は日々記載している。食事量が低下した場合には栄養補助食品なども活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夜間は職員が入れ歯の洗浄を行っている。必要があれば家人に依頼し歯科受診をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄管理を行い、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。異性介助の場合は遠くから見守りプライバシー確保しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、訪問看護師と相談しながら便秘の予防と対応に努めている。必要があれば主治医から飲食物のアドバイスを受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は職員が決めているが、最終決定は利用者により柔軟に対応している	毎日入浴できる体制で週2回入浴支援をしている。入浴時間は自由で個々に合わせ楽しい時間となっている。入浴剤や保湿クリームを使用し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の状態に合わせて午睡をすすめている。就寝時間も決めておらず眠気が見られたら就寝してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイル化し職員はみられるようにしている。薬のセットする職員と現場に持ち込む職員とでダブルチェックを行ない、セッティング後に訪問看護師がチェックしている。服薬変更時は情報共有ノートを使用し情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴などを把握し、役割や楽しみを見極め支援している。また施設内で家事活動役割を作り社会性の維持に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出活動などはコロナ過から控えているが、代わりに近所の公園への散歩を増やしている。	コロナ禍が継続しているが、ゆりの里へ外出したり公園へ散歩に出かけたりしている。毎日のレクリエーション活動や集団体操で下肢筋力の保持に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を所持している利用者はいない。希望があれば自販機がある為利用はできる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人からの電話も希望があれば取り次いでいる。携帯電話の持参も制限はしてなく持参されている方もいる。本人宛の手紙なども本人様に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒リスクになるような物は配置しないようにしている。利用者様と一緒に作成した作品などは廊下に展示するようにしている。	和風造りで畳の間が共用空間や居室にあり、安堵感が広がる空間である。ソファや椅子が会話の場になっている。共用空間は明るく、四季の手作り壁画等が飾られ、ベランダには季節の花が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所は職員が決めている。また交流関係を考慮した席替えなども行っている。ソファなどは自由に利用してもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に関しては本人、家人と相談し環境作りをしている。希望があれば本人の作成した作品なども飾っている	エアコン・ベッド・洗面所・クローゼット・壁掛けが設置され、利用者はテレビ・椅子・タンス等を持ち込んでいる。作品も飾られ利用者にとって居心地のよい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどを活用し独力で生活できるように配慮している。身体能力に合わせて見守り、声掛けなどを使いわけて支援している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100355		
法人名	医療法人厚生会		
事業所名	グループホーム匠 足羽ユニット		
所在地	福井県福井市灯明寺4丁目1706		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 5 年 11 月 28 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に基づいて、利用者様が自分らしく生活できるように個別性を尊重した生活の支援をしている。また、施設内の共同生活において役割を持って生活してもらえるように支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

九頭竜ユニットと同様
------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念を掲示しており朝礼時に理念を復唱しておりミーティングを通じて理解を深めている。	九頭竜ユニットと同様	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回したり地域の清掃に参加している。今年度から地域の祭りの御輿に来てもらうなど少しずつ地域行事への参加を進めている。	九頭竜ユニットと同様	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域交流はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しているが、施設の感染状況等により書面での開催が多くなっている。議事録においてはご家族に郵送している。	九頭竜ユニットと同様	九頭竜ユニットと同様
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困難事例の対応などは地域包括支援センターに相談しアドバイスを頂いている。また疑問点などにおいては市の担当者に確認を行っている。	九頭竜ユニットと同様	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯対策の為玄関の施錠はしている。身体拘束の研修は年2回行っている。運営推進会議時に身体拘束等の適正化の為の委員会を開催し報告している。	九頭竜ユニットと同様	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修を定期的実施している。施設内では伝達講習会を行ない職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の方が後見人制度を利用している。後見人と接する機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に必要事項の説明を十分に行い質問などもして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望等は面会時、担当者会議時、来所時に話し合いをしている。意見、要望などを確認し	九頭竜ユニットと同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事考課の際の面談やミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また普段から職員からの相談があれば話を聞く機会を作るようにしている。	九頭竜ユニットと同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行ないその際に面談も行っている。目標設定も本人がやりがいを感じれる目標になるように本人と相談し決定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は職員の異動、退職などで法人内研修にしか参加できていない。法人外の研修も予定していたが感染症発生があった為中止とした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は交流などもできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用者様、ご家族様への要望の確認を行っている。プランにも反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に利用者様、ご家族様への要望の確認を行っている。プランにも反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成がアセスメントをした上で、支援を見極めてケアに結び付けている。電話連絡時や面会時に本人様の様子等を報告しご家族の意見を伺っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせた活動を支援しグループホームらしい家事活動を取り入れ役割を持ってもらっている。活動してもらった後にはお礼を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状況は常に家族に活動報告を通じて報告している。また受診介助に関しては家人様にお願いしている。緊急時や体調不良時には電話にて相談、連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会室を用意し予約制だが面会を再開している。また運営推進会議などを通じて面会についての意見、要望などを他者から意見を頂き参考にしている。	九頭竜ユニットと同様	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関係を把握しテーブルの席などを考慮している。家事活動を共同作業で行う事で交流ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも相談業務は継続している。又終了前にも相談業務継続可能な事も伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と日々会話する中で利用者様の意向や思いなどを確認している。また入居者様個々に担当職員を決めている。	九頭竜ユニットと同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が各利用者様の基本情報の確認をするとともに新規入居者様に関しては朝礼時に基本情報などを読み上げ職員へ周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用して記録を行っている。適宜介助方法などを見直し、検討をおこなっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング等を職員間でも行っている。面会時、担当者会議、電話を通して介護計画書に反映している。	九頭竜ユニットと同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議やミーティング、申し送りを通してケアの見直しを行っている。申し送りに関しては共有シートを業務に入る前に確認し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向を汲み取りながらケアの見直しを行っている。管理者と各ユニットリーダー、職員とコミュニケーションを取りケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ過の為地域交流は中止しているが、感染対策ができるものに関しては再開している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、かかりつけ医は本人、家人が希望する所を家人受診にて行って頂いている。また状態報告を書を作成し家人に渡している。必要があれば病院とのやりとりを職員が直接し情報共有に努めている。	九頭竜ユニットと同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や身体観察で気づいたこと、異常時には指示を仰いでいる。緊急時の対応も訪問看護師と連携し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院へ基本情報を提出している。入院中は医療連携、相談員と定期的に連絡を取りカンファレンスにも出席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて早い段階から家族と相談する機会を持ち、今後についての話し合いをおこなっている。	九頭竜ユニットと同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応研修に参加し伝達講習を行っている。急変時、事故発生時に備え緊急連絡先、搬送先のリストを作成してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。運営推進会議でも協力要請などを行っている。災害時BCPも作成し随時災害時の対策を行っている。	九頭竜ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳に配慮した言葉遣い、声掛けを行うように心がけて介助している。プライバシーを損なう言動が見られた場合には職員同士で注意しあっている。	九頭竜ユニットと同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人に分かりやすいよう説明や同意を得ている。話しやすい様に日頃からコミュニケーションを大事にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に担当職員をつけると共にミーティング時に利用者個々に対して話し合いを行っている。また利用者の話を傾聴する事を重要としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師に施設に気てもらい頭髪を整えている。衣類に関しては本人と共に選んでおり、状態によっては家人に依頼し新しい衣類を用意してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は外注(スバル食品)を利用している	九頭竜ユニットと同様	九頭竜ユニットと同様
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量は日々記載している。食事量が低下した場合には栄養補助食品なども活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夜間は職員が入れ歯の洗浄を行っている。必要があれば家人に依頼し歯科受診をお願いしている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄管理を行い、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	九頭竜ユニットと同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医、訪問看護師と相談しながら便秘の予防と対応に努めている。必要があれば主治医から飲食物のアドバイスをもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は職員が決めているが、最終決定は利用者により柔軟に対応している	九頭竜ユニットと同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のその日の状態に合わせて午睡をすすめている。就寝時間も決めておらず眠気が見られたら就寝してもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイル化し職員はみられるようにしている。薬のセットする職員と現場に持ち込む職員とでダブルチェックを行ない、セッティング後に訪問看護師がチェックしている。服薬変更時は情報共有ノートを使用し情報共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の生活歴などを把握し、役割や楽しみを見極め支援している。また施設内で家事活動役割を作り社会性の維持に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出活動などはコロナ過から控えているが、代わりに近所の公園への散歩を増やしている。	九頭竜ユニットと同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を所持している利用者はいない。希望があれば自販機がある為利用はできる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人からの電話も希望があれば取り次いでいる。携帯電話の持参も制限はしてなく持参されている方もいる。本人宛の手紙なども本人様に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒リスクになるような物は配置しないようにしている。利用者様と一緒に作成した作品などは廊下に展示するようにしている。	九頭竜ユニットと同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事場所は職員が決めている。また交流関係を考慮した席替えなども行っている。ソファなどは自由に利用してもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内に関しては本人、家人と相談し環境作りをしている。希望があれば本人の作成した作品なども飾っている	九頭竜ユニットと同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどを活用し独力で生活できるように配慮している。身体能力に合わせて見守り、声掛けなどを使いわけて支援している		